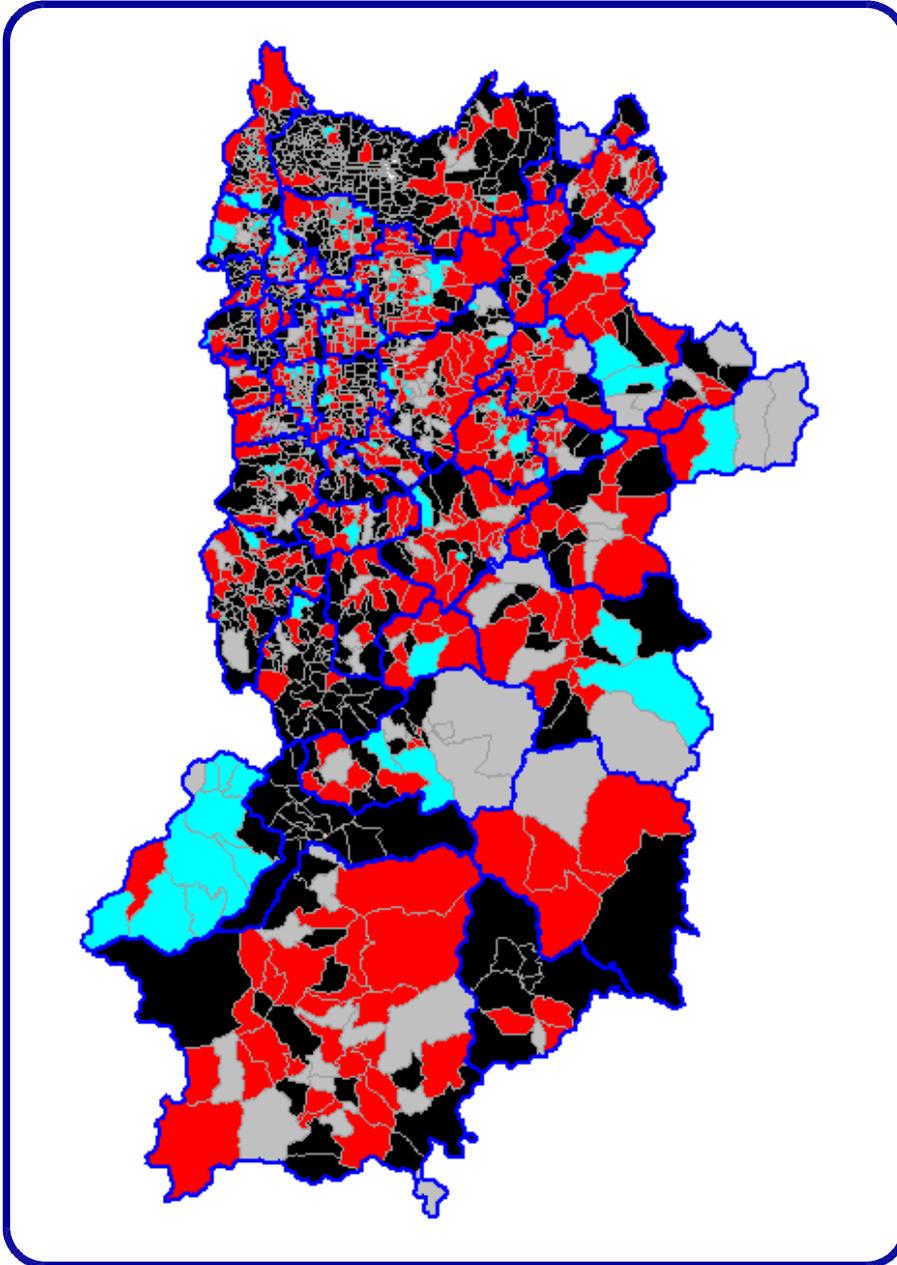


農業・林業集落アンケート調査によるヒヨドリの生息状況・被害状況(平成22年度)

1. 平成22年度農業集落アンケート調査によるヒヨドリの分布



左図は、平成22年度の農林業集落アンケート調査による、ヒヨドリの分布である。

農業集落でヒヨドリが「いる」と回答があった場合に「いる」と回答があった場合に「分布している」とした。回収無しには既に人が住んでいない集落も含まれている。

ヒヨドリは平地の林から山地の森林まで広く生息し、都市部、農耕地であっても、ある程度木(あるいは林など)があれば生息している。本設問の回答もそのようなヒヨドリの生態を反映しており、ほぼ県内全域から「いる」との回答があった。

平成22年度

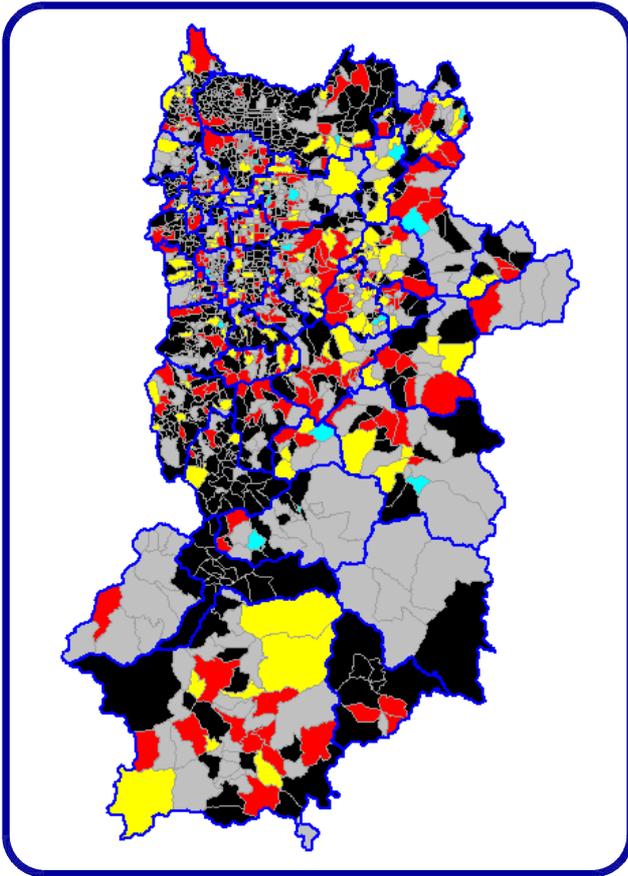
いる	516集落
いない	99集落
回答無し	133集落
回収無し	1060集落
全	1808集落

参考)平成21年度

いる	517集落
いない	266集落
無回答	4集落
回収無し	1021集落
全	1808集落

凡例 図中 青線 市町村界 市町村界内側の線 大字・地区界
 なお、この市町村界、大字・地区界の凡例は次項以降の図も同様である

2. ヒヨドリの農地・集落周辺への出没



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、ヒヨドリの農地・集落周辺への出没状況である。

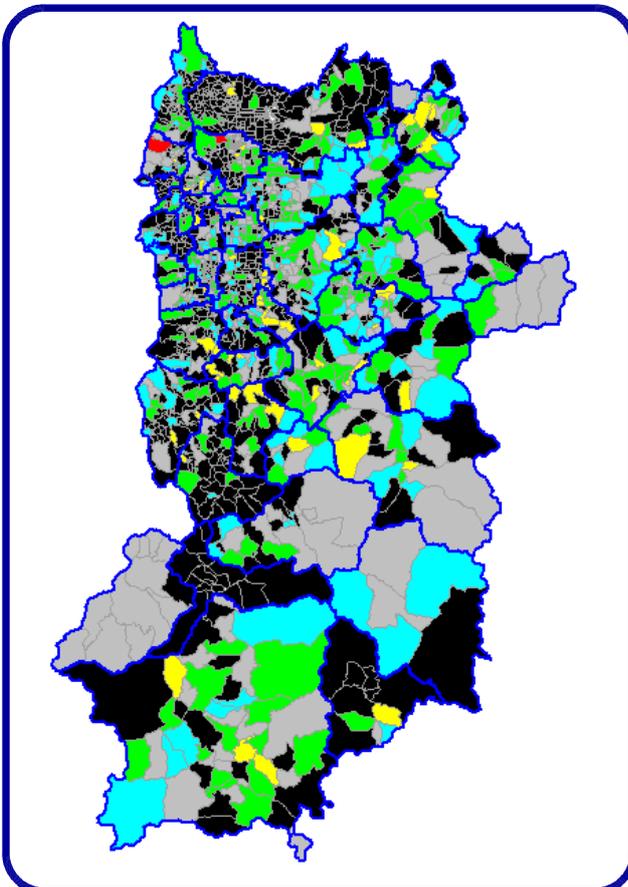
ヒヨドリが「いる」と回答があり、かつ本設問の回答があった409集落の内訳は下記の通りである。

平成22年度は「よく見る」との回答が約57%と、県内の多くの地域から回答があった。

・平成22年度	
よく見る	232集落(57.0%)
たまに見る	153集落(37.2%)
あまり見ない	24集落(5.8%)
回答数	409集落

・参考)平成21年度	
よく見る	251集落(59.5%)
たまに見る	146集落(34.6%)
あまり見ない	25集落(5.9%)
回答数	422集落

3. ヒヨドリの農業被害の大きさ



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、ヒヨドリによる農業被害の大きさの意識調査の結果である。ヒヨドリが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった481集落の内訳は下記の通りである。

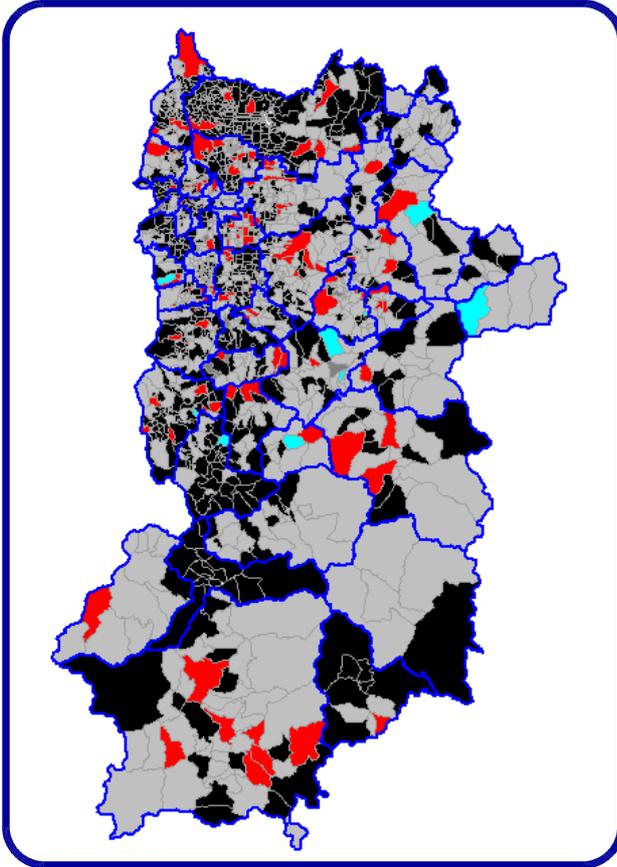
ヒヨドリの農業被害は、「軽微」なものが約51%と最も多かった。「深刻」は約1%とほとんど無かったが、「大きい」は約12%であった。

ヒヨドリの農業被害は発生しても「軽微」なものがほとんどで、状況により一部で被害が大きくなるものと考えられる。

・平成22年度	
ほとんど無い	182集落(36.5%)
軽微	251集落(50.4%)
大きい(生産量の30%未満)	61集落(12.2%)
深刻(生産量の30%以上)	4集落(0.8%)
回答数	498集落

・参考)平成21年度	
ほとんど無い	179集落(35.8%)
軽微	253集落(50.6%)
大きい(生産量の30%未満)	62集落(12.4%)
深刻(生産量の30%以上)	6集落(1.2%)
回答数	500集落

4. ヒヨドリの被害対策 防鳥ネットの効果(農地)



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、ヒヨドリの農業被害対策の、防鳥ネットの設置による効果の意識調査の結果である

ヒヨドリが「いる」と回答があり、かつ本設問に回答のあった123集落の内訳は下記の通りである。

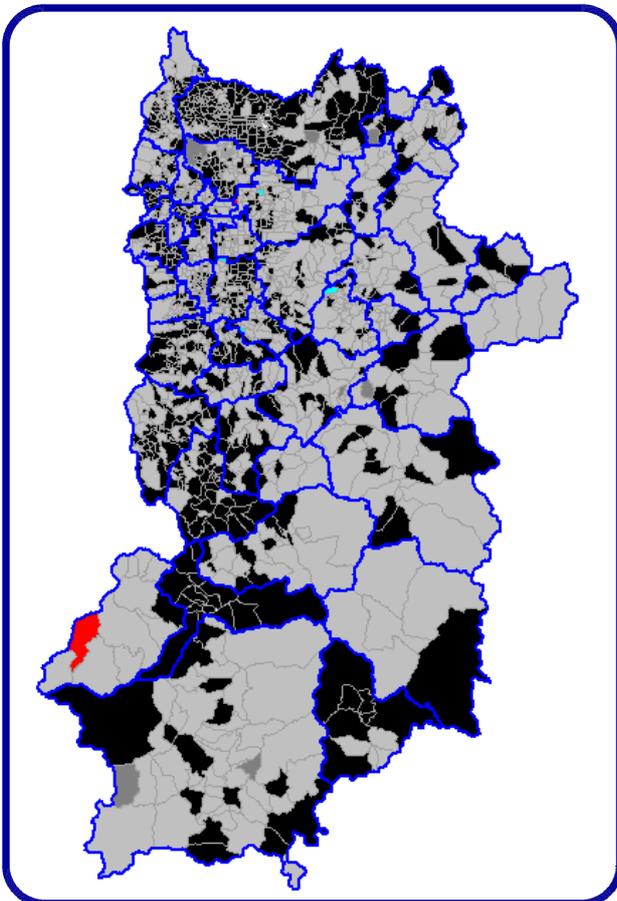
防鳥ネットは農業被害対策として、効果が非常に高いことがわかる。

・平成22年度		
■	効果があった	114集落
■	効果がなかった	9集落
	回答数	123集落

・参考)平成21年度		
■	効果があった	127集落
■	効果がなかった	17集落
	回答数	144集落

その他、テグスなどのラインを張り巡らすことによって効果的な防除を実施しているものが、2集落(効果無しは0集落)あった。また、果樹等には袋をかけることで効果を上げている事例が2集落(効果無しは0集落)

5. ヒヨドリの被害対策 有害捕獲の効果(農地)



左図は平成22年度の農業集落アンケートによる、農業被害対策の、有害捕獲を実施した効果の意識調査の結果である。

本設問へ回答は、6集落のみであった。

・平成22年度		
■	効果があった	2集落
■	効果がなかった	4集落
	回答数	6集落

・参考)平成21年度		
■	効果があった	4集落
■	効果がなかった	5集落
	回答数	9集落